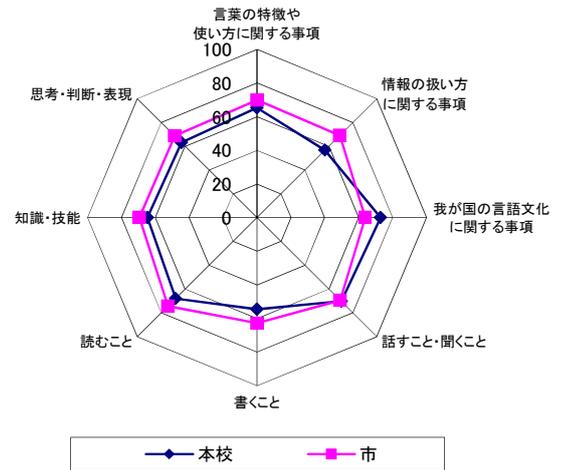


# 宇都宮市立清原東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.4	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	56.8	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	73.0	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	70.3	69.5	71.5
	書くこと	54.5	62.8	67.1
	読むこと	68.0	74.4	73.7
観点別	知識・技能	64.7	69.4	71.9
	思考・判断・表現	63.1	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

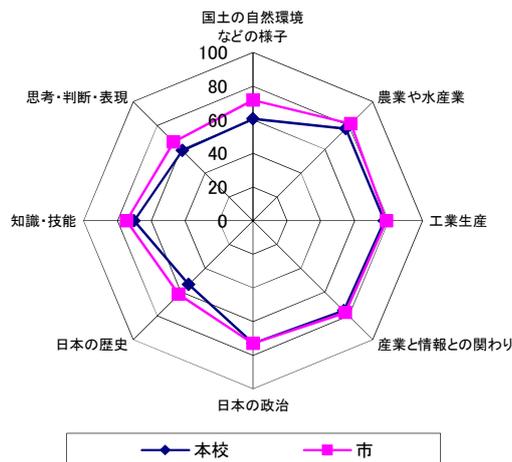
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は市の平均正答率より低い。 ○文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使う問題では市の平均回答率を7.4ポイント上回った。 ●第5学年に配当されている漢字の書き取りに課題が見られる。無回答率も多い。	・授業の中で、思いや考えを書く時間をじっくりとったことで、自分の言葉で述べるできるようになっている。しかし、漢字の書き取りが身に付いていない児童もあり、定着に課題が見られる。文章を書く中で、既習の漢字を意識して使わせるようにする。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は市の平均正答率より低い。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、市の平均正答率から5.2ポイント下回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、条件に合わせて文章を書く問題では、市の平均正答率から19.6ポイント下回っている。解答状況を見ると文章から条件通り書き抜くことができていないことが多い。	・字数制限をつけて文章の要点をまとめる練習をしたり複数の情報をまとめたりすることを授業で行い、定着を図る。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市の平均正答率より高い。 ○語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語についての問題では、市の平均回答率を9.2ポイント上回った。	・和語、漢語、外来語について十分理解できている。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均正答率と同程度といえる。 ○話し合いをする場面の音声情報を聞いて、登場人物の立場や意図を考えてアドバイスをする問題では市の平均正答率を4.1ポイント上回っている。 ●話し手の目的に応じて、話の内容を捉える問題では、正答率が70.3%で、市の平均正答率から5.9ポイント下回っている。	・話し合い活動で、「計画的に話し合う」ことを意識して行えるように進行の仕方を掲示したり、いつでも手元で確認できるようにカードを作成したりして、児童主体の活動ができるように支援する。また、必要な情報を聞き取ってメモを取る練習を繰り返し、定着を図る。
書くこと	平均正答率は市の平均正答率より低い。 ○指定された長さで文章を書く問題では、正答率が67.6%で、市の平均正答率と同程度である。 ●予想される反論とそれに対する意見を書く問題では、市の平均正答率を17.1ポイント下回っている。	・段落の構成についても意識させ、文章を作成する際に相手に伝わりやすいかどうかを考えるよう習慣づける。 ・朝の学習や家庭学習などで字数制限のある自由作文を取り入れて気軽に文章を書く活動に取り組みせ、文章を書くことへの抵抗感をなくすようにしていく。 ・相手の立場や考えを予想しながら文章を書くよう指導していく。
読むこと	平均正答率は市の平均正答率より低い。 ○説明文の文章全体の構成を捉える問題では、市の平均正答率を6.3ポイント上回った。 ●叙述を基に文章の内容を捉える問題では、市の平均正答率から16.6ポイント下回っている。	・文章を素早く正確に読み取ることができるように、言葉の意味や文法的な構造について繰り返し指導し、定着を図る。 ・説明文の文章に慣れるよう朝の学習や家庭学習などで文章を読み取る問題を取り入れる。

# 宇都宮市立清原東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	60.5	71.6	67.5
	農業や水産業	77.5	81.5	82.1
	工業生産	77.5	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	75.7	77.2	68.2
	日本の政治	73.0	73.1	77.9
	日本の歴史	53.7	62.0	65.8
観点別	知識・技能	70.1	74.6	74.5
	思考・判断・表現	58.9	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

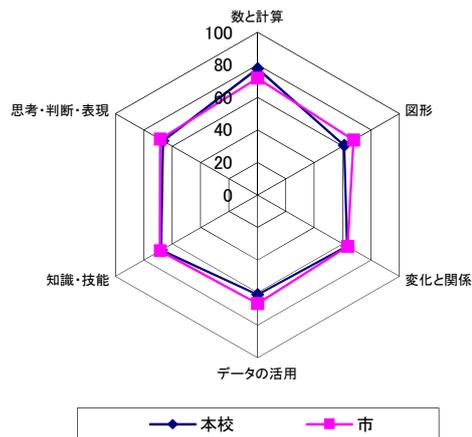
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は市の平均正答率より低い。 ○防潮堤についての理解を問う設問では、市の平均とほぼ同じ正答率であった。 ●日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに地図を読み取る問題では、市の平均を20ポイント近く下回っている。	・基礎的な事項については、折に触れて繰り返し学習することが必要であるといえる。
農業や水産業	平均正答率は市の平均正答率より低い。 ○カントリーエレベーターについての理解を問う問題では、市の平均を4ポイント上回った。 ●都道府県の位置と農産物の産地の理解をもとに適切な地図を判断する問題では、市の平均を17ポイント下回った。	・都道府県ごとの特色および地図の読み取りについて繰り返し学習することが必要である。
工業生産	平均正答率は市の平均正答率とほぼ同じである。 ○日本の輸出品の資料の読み取りでは、市の平均を8ポイント上回った。 ●自動車の出荷の工夫を記述して答える問題では、市の平均を11ポイント下回った。	・資料を読み取って理解できたことを短文で記述する経験の蓄積が必要である。
産業と情報との関わり	平均正答率は市の平均正答率とほぼ同じである。 ●資料に着目して森林の働きをとらえ記述して答える問題では、市の平均を7ポイント下回った。	資料を正しく読み取ることおよび得られた情報を組み合わせて考えたことを短文で表現する経験を蓄積する必要がある。
日本の政治	平均正答率は市の平均正答率とほぼ同じである。 ○日本国憲法に関する設問では、市の平均を7ポイント以上上回った。 ●図に着目して国民による政治の仕組みを判断する問題では、市の平均を12ポイント下回った。	・日本国憲法についてはよく理解できているといえる。政治の仕組みについては、より身近な例をもとに学習するなど具体的体験的な学習が必要である。
日本の歴史	平均正答率は市の平均正答率より低い。 ○大和朝廷についての理解を短答式で答える設問では、市の平均を8ポイント上回った。 ●奈良時代の資料に着目して、日本の文化に遣唐使が与えた影響を考え記述して表現する問題では、市の平均を5ポイント下回った。 ●鎌倉幕府が置かれた場所の資料を読み取って答える設問では、市の平均を27ポイント下回った。	・学習した語句については理解できていることが多いが、資料などと組み合わせて考える力に課題がある。引き続き、資料から分かったことを表現する経験を蓄積していく必要がある。

# 宇都宮市立清原東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.6	71.8	76.2
	図形	61.1	67.7	67.8
	変化と関係	63.1	63.4	62.7
	データの活用	61.3	66.7	61.5
観点別	知識・技能	67.8	68.6	70.7
	思考・判断・表現	66.5	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

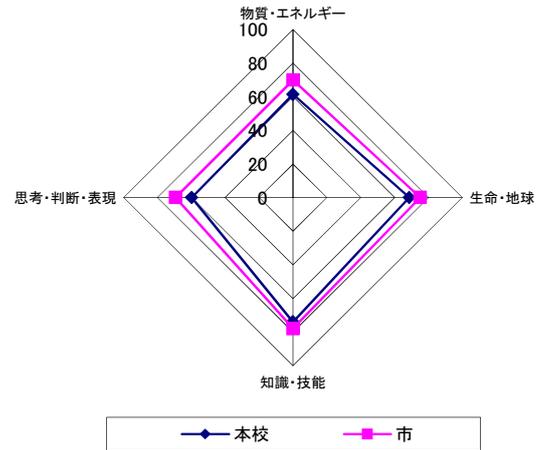
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均正答率より高い。</p> <p>○小数や分数の計算、文字の式は市の平均正答率より高い。</p> <p>●分数の文章問題を解くために式を立てる問題は、市の平均正答率より4.5～19ポイント下回った。</p> <p>●文字を使った式が表す場面を選ぶ問題では、市の平均より9ポイント下回った。</p>	<p>・基本的な計算練習を継続するとともに、文字を使った式が表す場面を考えたり、文字を使った立式の練習をしたりすることに重点を置く。</p> <p>・問題解決をする時の手段として、各学年の授業で、図をかいたり数直線を用いたりして数量関係を視覚的に捉えて考え、立式できるように指導する。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均正答率より低い。</p> <p>○高さが図形の外にある三角形面積を求める問題や線対称な図形の対象の軸が何本あるか求める問題は市の平均正答率と同程度である。</p> <p>●直方体を組み合わせた形の体積を求める問題、2つの角が与えられた三角形の一つの外角を求める問題、三角柱の展開図を組み立て重なる辺についての問題、正五角形の作図方法から円の中心の周りにできる角の大きさを求める問題、点対称な図形について対応する辺を求める問題では、市の平均正答率より低い。</p>	<p>・直方体や立方体を組み合わせた形の体積を求める問題、角柱や円柱の展開図を描いたりその長さを調べたりする問題、正五角形の作図やその角度を調べる問題、点対称な図形の性質など基本的な内容を復習をする時間をとる。</p> <p>・図形の面積や体積を求める公式など、各学年で学習する内容を確実に身に付けられるように、繰り返し指導する。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均正答率と同程度である。</p> <p>○図から面積と数の割合を求め、どこが混んでいるかを考える問題、速さの単位の関係を理解し、時速を秒速や分速に治す問題は、市の平均正答率より高い。</p> <p>●基準量と比較量から割合を求める問題は、市の平均正答率より低い。</p>	<p>・朝の学習や家庭学習などで繰り返し学習し、定着を図る。授業でも、基準量と比較量から割合を求める練習問題に重点を置いて指導する。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均正答率より低い。</p> <p>○折れ線グラフを読み取る問題、値に0がある連続量の平均を求める問題は市の平均正答率よりやや高い。</p> <p>●ドットプロットから中央値を読み取る問題、ヒストグラムを読み取る問題、欲しいデータを求めるために必要な情報を選ぶ問題、帯グラフを読み取り説明する問題は、市の平均正答率より低い。</p>	<p>・ドットプロットから中央値を読み取る問題、ヒストグラムを読み取る問題、欲しいデータを求めるために必要な情報を選ぶ問題、帯グラフを読み取り説明する問題に重点を置いて指導する。</p> <p>・今後も自分の考えを書く活動と伝える活動を多く取り入れ、筋道を立てて説明する力を育てる。また、学年に応じた説明の言葉の指導も取り入れる。</p>

# 宇都宮市立清原東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	61.4	69.9	67.8
	生命・地球	68.6	75.1	73.7
観点別	知識・技能	74.0	77.8	78.4
	思考・判断・表現	59.8	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は市の平均正答率より低い。</p> <p>○植物の発芽と成長では、昨年度、本校で課題となった対照実験に関する設問で、正答率が8割以上となった。</p> <p>●ふりこのきまりについての設問で誤答が多く見られた。特に、「ふりこのきまりから、メトロノームのテンポを速くする方法を推測する」問題では正答率が27%という結果だった。</p>	<p>・前年の学習内容に特に誤答が目立ったことから定着のあいまいさを感じ取れる。一人一台端末を活用して、長期休業や週末にドリルに取り組ませる等、繰り返し学習を行わせることで確実に定着させていく。</p> <p>・電流や水溶液の学習等、既習事項を確認してスタートする学習では、導入部分で前年までの学習内容の確認を丁寧に行う。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は市の平均正答率より低い。</p> <p>○「月と太陽」の月の形、太陽の位置に関すること、「水溶液の性質」に関する設問では、市の平均正答率より高いものが見られた。</p> <p>●「植物のつくりとはたらき」、「水溶液の性質」では特に記述式や短い言葉で答える設問に誤答が多く見られた。</p>	<p>・興味・関心を高くもって取り組むことが成果へとつながっている。実験や観察に積極的に参加させるために根拠をもとに自分なりの予想を立て実証させる。映像資料を活用して体験が難しいものを補う等を日常的に行い、力の向上に努める。</p> <p>・実験・観察の結果から考えられることを個々に記述させ全体で共有する活動を丁寧に行う。この活動を積み上げることで、理科学語を使って答える力、見た事象を表現する力、考察する力、的確に判断する力の向上を図る。</p>

## 宇都宮市立清原東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・ICTを活用して児童が主体的、対話的に学習に取り組む授業の工夫(相手に伝わるように表現する力を育む)	・学習場面に応じた効果的なICT活用の工夫(情報収集, 整理分析, 情報共有) ・一人一台端末を活用した協働学習における対話的な学び合い	・話し合いをする場面での音声情報を聞いて、登場人物の立場や意図を考えてアドバイスする問題では、市の平均正答率を上回っている。 ・話し手の目的に応じて話の内容を捉えたり、予想される反論とそれに対する意見を書く問題では、市の平均正答率を下回っている。
・基本的な学習習慣の定着と読書時間の確保を図る工夫	・「家庭学習強化週間」や「親子読書」など、家庭との連携を図った取り組みの実施 ・学校図書館利用の習慣化(授業への位置づけ)	・平日の学習時間は、高学年の目標の1時間を確保している児童の割合が7割程度であった。一方、30分以下しか学習に取り組めない児童も3割程度いる。 ・「本や新聞を読んでいる。」の設問では、市の肯定割合を上回っている。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- 自分の考えを書く力の育成
  - ・スマイルネクストドリルを活用した反復学習を行い、各教科の基礎・基本となる語句や用語の意味、使い方についての理解を深める。
  - ・ICTを活用して、自分の考えを表現する機会を増やす。
  - ・朝の学習の時間を活用して、表現力の基礎となる力の向上を図る。
- 家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫
  - ・学習の振り返り活動を充実させ、学習を自己調整する力を高めることで、自主的に家庭学習に取り組む態度を養う。